

表-2 第4次中期計画の骨子・目的と活動内容（アクションプラン）

第4次中期計画の骨子・目的		活動内容（アクションプラン）		企画検討担当	実施主体
1. 新たな社会的課題への対応	気候変動適応策、大規模災害への対応、防災・減災事業と自然環境保全の両立など、新たな課題への取り組み	・気候変動適応策等の調査・研究課題への取り組み	・気候変動適応策等の調査・研究課題や防災・減災事業と自然環境保全の両立に向けた研究に対し、学会として取り組む方向性、他の学会との連携体制を整備する。	幹事会	
		・大規模災害等、緊急時の学会対応体制の検討	・大規模災害時の学会としての緊急調査等の対応方針を検討し、実施体制の整備（派遣費用等の準備）を行う。	幹事会、特命班1	
		・会誌での特集号の増加	・上記の情報等を会誌上で特集し、社会への情報発信の一助とする。	会誌編集委員会、研究活動奨励班	会誌編集委員会
	国際的な技術交流・情報発信	・アジア地域の研究者・組織との技術交流	・国内の留学生を含め、アジア地域の関連分野の研究者・組織への情報発信等を通じて技術交流を深める。	幹事会、国際交流委員会、国際交流/ICLEE 対応班	国際交流委員会
		・国際会議でのセッションの実施	・国際会議（2018年開催予定の International Symposium on Ecohydraulics (ISE 2018) 等）において、応用生態工学会としてセッションをもつ。	国際交流委員会、国際交流/ICLEE 対応班	国際交流委員会
		・LEE 特集号（大規模災害、放射性物質等）の推進	・上記国際学会の発表、東日本大震災を中心とした大規模災害と生態系、放射性物質による生態影響などのインパクトがあるテーマで英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の特集号を組むことを検討する。	幹事会、国際交流/ICLEE 対応班	国際交流/ICLEE 対応班
2. 学会活動を通じた社会への貢献	他分野との交流	・他学会との学会誌の相互閲覧サービス	・一方の学会の会員になれば、他の学会の学会誌内容を J-STAGE から見られるなどのサービスの提供について検討を行う。	幹事会	
		・合同研究発表会等（ELR の継続）の取り組み	・三学会合同大会（ELR）の継続のほか、他学会との合同発表会（地域研究会も含む。）を目指す。	幹事会、全国活動運営班	大会実行委員会、普及・連携委員会（担当地域委員）
	国内への情報発信	・テキスト刊行の継続	・第2刊目以降のテキスト刊行活動を継続する。	テキスト刊行委員会、学術成果総括活動班	テキスト刊行委員会
			・発刊したテキストについて、セミナー等による普及に取り組む。	テキスト刊行委員会、普及・連携委員会	テキスト刊行委員会、普及・連携委員会
		・ウェブサイトを活用した情報発信	・ウィキペディア等を用いた用語解説、YouTube 等を用いた動画（現場で使える調査技術の講習ビデオ等）の配信、Facebook を用いた会員交流等による情報発信について検討を行う。	幹事会、情報サービス委員会、広報班、学術成果総括活動班	
		・重要テーマに関する bibliography の作成	・テキスト刊行と連携し、重要テーマに関する bibliography（書誌、目録）の作成について検討を行う。	幹事会、学術成果総括活動班	
	対外活動の充実	・技術援助の継続実施	・応用生態工学の視座の浸透と事業等への活用に向けた学術的な技術援助を継続して実施する。	技術援助委員会	技術援助委員会
			・河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換を継続実施し、学会の調査・研究成果について河川管理の実務への反映を図っていく。	幹事会（技術援助活動班）	幹事会（技術援助活動班）
			・市民活動への技術支援に取り組む。	普及・連携委員会	普及・連携委員会
	各委員会活動の継続・充実	・会誌への投稿増、査読期間の短縮	・会誌編集事務局体制を強化し、査読期間の短縮を図る。	会誌編集委員会	会誌編集委員会
・行政関係者とも連携し、「レポート」等の論文投稿促進キャンペーンを重点的に行う。			会誌編集委員会、研究活動奨励班	会誌編集委員会、研究活動奨励班	
・地域活動の充実、現場ニーズの研究活動への反映		・地域活動拠点を増やすとともに、それぞれの地域での産官学連携を促進する。それにより現場ニーズが研究活動に反映されるような情報発信の仕組み等を構築する。	普及・連携委員会、全国活動運営班	普及・連携委員会	

第4次中期計画の骨子・目的		活動内容（アクションプラン）		企画検討担当	実施主体
2. 学会活動を通じた社会への貢献	各委員会活動の継続・充実	・海外の最新情報の把握（派遣，研究者招聘）	・海外学会等への派遣，国際交流イベント（2年に1回開催）を継続実施する。 ・上記の取組みにおいて得られた情報の概要は公開し，詳細は会誌やニュースレター等で会員向けに配信する。	国際交流委員会	国際交流委員会
		・ウェブサイトの維持	・情報発信のツールとしてのウェブサイトを継続的に維持する。	国際交流委員会，情報サービス委員会，広報班	国際交流委員会，情報サービス委員会
3. 学会活動の充実と活性化	会員サービスの充実	・学会賞の創設	・大会での優秀発表賞のみならず，論文賞（和文，英文），学会奨励賞，学会賞的なものを作る。技術者向けの現場の表彰等も検討する。	幹事会，研究活動奨励班	研究活動奨励班
		・学会行事のCPDプログラムとしての登録	・学会行事について，関係学協会のCPD（継続教育）認定プログラムとしての登録申請を積極的に行う。	事務局改善ワーキンググループ，財政・組織運営班	学会事務局，各委員会，地域研究会，大会実行委員会
	研究発表実績に対する社会的評価の向上	・研究発表実績に対する評価の向上検討	・会誌掲載論文について，技術者としての評価を得る要素となりえないか，検討を行う。	幹事会，事務局改善ワーキンググループ，財政・組織運営班	
	ウェブサイトの活用促進	・会員に向けた情報の提供	・関連分野の海外最新情報，行政の最新情報等について会員に向けた提供を行い，賛助会員も含め，会員であることのメリットを強化する。	幹事会，事務局改善ワーキンググループ，情報サービス委員会，広報班	情報サービス委員会
4. 学会運営の健全化・安定化	会員増	・個人会員増キャンペーン	・個人会員の増加に向けた加入キャンペーン策を検討，実施する。	事務局改善ワーキンググループ，財政・組織運営班	学会事務局
		・賛助会員の募集活動	・関連企業，研究機関等に賛助会員募集の案内を継続的に送付する。そのためのツール（学会パンフレット等）を作成する。	事務局改善ワーキンググループ，財政・組織運営班	学会事務局
	事務局体制の安定的な維持	・事務局改善ワーキンググループでの継続検討	・事務局改善ワーキンググループにおいて，学会財政の安定化と事務局業務の負担軽減に向けた検討を継続実施する。	事務局改善ワーキンググループ，財政・組織運営班	事務局改善ワーキンググループ